

「安心・活力・発展プラン2005」推進委員会委員発言要旨 －総合部会－

開催日：平成21年7月30日（木）10：00～12：00

場 所：大分県消費生活・男女共同参画プラザ アイネス

出席委員：豊田部会長、高橋委員、西委員、溝口委員、宇津宮委員、村上委員、井上委員、山崎委員、由佐委員

【議事概要】

（大分の子どもたちの幸せのために）

- ・「子育て満足度日本一」を目指すとしているが、子育て満足度というのは、どういう要件が整えばよいのか。目標がはっきりしないと努力が実りにくい。どんな項目で、どの程度というような基準をつくって、それを確実に実行していくというやり方がよいのではないか。
- ・「子育て支援」と「子育て支援」、「親のニーズ」と「子のニーズ」を一致させていくことが必要ではないか。
- ・都会では、子育て環境の恵まれた自治体へ住み替えるという現象も起こっている。子育てのための配慮がなされているかどうかでその県が住みやすいかどうかというのも決まってくるのではないか。
- ・子どもは次世代の財産。自分の「まち」を誇れる子どもをいかに育てるかが将来のまちづくりに大きく影響する。それが住んで良かったと思える町づくりにつながる。
- ・臼杵市が「臼杵学」というものを行い、小学生がそれを勉強して地域のガイドとして活動するという事を行っている。このように、子どもも地域の一員であるということを実感させ、他の地域の人に誇れるような人づくりを地域によって行うことも必要ではないか。
- ・子育てには、まずは両親が参加することが一番。そこで、男性が育児に参加し難い要因は何か、分析が必要。また、若い人たちに子育ての方法が分からないという意見が多いので、ガイドラインのようなものを作ることも必要ではないか。
- ・東京都杉並区では、みんなでガーデニングをしましょうと、住民が外に出て庭いじりをするようになると、空き巣が1年間で3分の1に減少したとの事。怪しげな人物が歩けなくなったことが要因。この取り組みは、地域による子育ての一つとして、まちづくりと子どもの安全に応用できるのではないか。
- ・教育は、基本的に「型」にはめることが必要。しかし、手を離して自分で考えさせるタイミングとの兼ね合いがうまくマッチングしない限り、生活習慣や規範意識の確立にはつながらない。例えば、学校給食で、まずは残してはいけないという指導をしないといけないし、同時に残した場合の問題を考えさせるということも必要ではないか。
- ・地域づくりは、まずあいさつから。豊後高田市で、廃校の危機感を持った高校で、生徒にあいさつを奨励したことがきっかけとなって商店街でのやる気を生み、「昭和の町」が生まれた。このように、あいさつ運動ほ金をかけない地域づくりでとても有効である。
- ・地域の良さを自分たちがもっと知ること。それが地域振興につながる。
- ・教員の人事は広域で考えてほしい。また、1年程度で変わるようなことがないようにしてほしい。

- ・地域に密着した先生、例えば、地元出身の先生の配置にも配慮してほしい。例えると、「鳥の目」と「虫の目」広い視点と細かい視点の両方が教育には必要ではないか。
- ・おもてなしのこころを育むことが子どもの幸せにつながる。人を気遣えるような教育が大切ではないか。

(おおいたブランドの確立のために)

- ・ブランドは、自分が作るものではなく、お客様が作ってくれるものだという視点がないといけない。
- ・ブランド作りでは、心を込めることが大事。相当な努力を行った結果の感動がにじみ出るようなものでないといけない。
- ・ブランドの定着では、みどり牛乳やサッポロビールの例のように、行政の後押しがあると非常に心強く助けになる。
- ・大分のブランドは、やはり「温泉」。しかし、県民の間でも十分に理解されているかどうか疑問である。改めて温泉のもつ文化・社会・自然科学的側面について、きちんと理解してもらう必要がある。その理由の一つは、有限である温泉資源の確保について危惧する事態が生じつつあるということ。
- ・東北では、温泉を観光資源として大事にしている。大分県でも、ただ、温泉が出るというだけでは駄目で、別府温泉をはじめ、各地域の施設での環境整理等おもてなしの心をもった対応が大事ではないか。
- ・「水」も大事な大分県の財産。水の源は自然環境なので、その環境をいかに保っていくか、温泉資源の保全などとともに、幾つかのキーワードを県で作って、その推進のためにいろいろな催し物などを行っていく必要がある。
- ・ブランドの質と信用を保つことが必要。行政はこれらの管理をする必要がある。
- ・ブランド情報の発信では、いかに外の人に見てもらおうかという観点が大事。現在、何かを情報発信する場合、インターネットを利用する事が多いが、検索方法としては、全体のコンセプトを見ながら探して行って行き当たるという手法になっている。これだと、「知られていない」ことは「無い」ことと同じ状況になってしまう。エントランスの部分でいかに見ってもらおうかという工夫が必要ではないか。
- ・ブランド確立のためには、「人づくり」、「人と人との連携」、「PR」の3つがポイントではないか。

(県民の夢の創造と実現のために)

- ・道州制が今後進んでいくが、その中で大分県をどう考えていくかが重要な視点となる。
また、圏域を関西にまで広げて、関西の経済情勢が九州にどう影響を及ぼしているのかを考えることも必要ではないか。
- ・現在の芸術会館の規模及び老朽化の状況を考えると、是非、新設してほしい。大分県は有名な美術家を数多く輩出しており、こういう方々の作品を展示し、子どもたちに本物を見せることで芸術的な感性や情操も育ててほしい。建設経費は工夫で捻出できるはず。
- ・美術館では、県民の意見集約や他県の調査を十分に行い、良いものとしてほしい。
- ・美術館・科学拠点施設整備等、夢の創造と実現では、ハードとソフトの両方の充実が大事ではないか。